

日本大学

NIHON UNIVERSITY DISTANCE LEARNING DIVISION ALUMNI ASSOCIATION

# 通信教育部校友会報

発行所：日本大学通信教育部校友会  
発行責任者：北村 周之／編集責任者：藤井 友和

〒102-8251 東京都千代田区五番町12-5 TEL・FAX 03(3234)5858  
通信教育部校友会ホームページ：<http://www.nudld-koyukai.sakura.ne.jp/wp/>

## 2025年 第54回 定期総会報告

子曰、君子和而不同、小人同而不和。『論語』

現代語訳

君子は他者と調和し上手くやっていくが、決して他者に引きずられたり流されたりしない。つまらない人は、他者に振り回されたりこびへつらったりするが、決して他者と調和しようとはしない。

### 会長 挨拶

日本大学通信教育部校友会会長

北村 周之



校友会の皆さま、平素より校友会活動に多大なるご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

早いもので会長職を拝命してから三年目を迎えました。

会長就任後、私は従来の校友会活動として「学生支援会員」支援活動」を最重要課題といたしました。

### 部長 ご挨拶

日本大学通信教育部長  
大学院総合社会情報研究科長



陸 亦群

通信教育部校友会の皆さま、『校友会報』第104号の発刊おめでとうございます。平素より通信教育部と大学院総合社会情報研究科

本学では、学位取得を目指す学生と、リカレント教育として学び直しをされる学生がおり、その割合はおおよそ半々となっております。また、令和2年度以降、学生層の若年化が顕著に進んでおり、令和7年度の正科生(前期生)の年齢別入学者数を見ますと、10代・20代の若い世代が全体の約70%を占めております。

### 校友会会長 ご挨拶

日本大学校友会会長

大谷 喜一



通信教育部校友会の皆さま、校友会報第1

04号の発刊誠にありがとうございます。日頃より通信教育部校友会の皆さまには日本大学校友会の活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

学生支援と一言で言っても具体的にどのような支援が望ましいのか。どのようにして校友会を学生の皆さんに理解してもらうか。これらを考えた時に、まずは校友会の組織改革が必要であると思ひ、諸先輩方にも相談し若手役員を執行部に配置しました。仕事と校友会活動の両立は不安もありましたが、校友会を維持し、継続していくには、若手の積極的起用が必要不可欠であり、現在役員も同様に補い合い活動しております。

可欠であり、現在役員も同様に補い合い活動しております。

そして、学生支援活動の試みとして、一年目は、地方スクーリング懇親会支援を行いました。学友会がない現在、学生同士が集まる事の出来る場を提供しようという考えのもと、大学と連携し校友会の周知も含めて実施いたしました。

三年目には、夏期スクーリングで、法学部地下食堂において120名の交流会を大学と協賛して開催することが出来ました。

学生の皆さんは、校友会の未来を担う存在であり、学生支援活動の充実と活力を向上させる鍵となります。そのため、引き続き校友会の存在そのものを認知してもらう活動を行ってまいります。

また、支部ごとの成功事例を共有し、他の支部でも活用できるように支援体制を整え、支部活動の底上げを図っていきたいと思います。

これらの取り組みを通じて、校友会がより強固な組織へと成長していくことを目指し、共に未来を創り上げていくことができるよう、私自身も全力で努力してまいります。また、5月には延期になっていた、創立50周年記念式典を「創立50周年記念式典・祝賀会」として令和8年5月16日に開催いたします。通信教育部にゆかりのある先輩方をご招待させて頂く予定で準備しております。なにとぞ、皆様にもご出席いただき、お会いできるのを楽しみにしております。

最後に、これまで以上に会員の皆さまのご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、これまで以上に会員の皆さまのご協力とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

居住地を問わず多様な学生が学んでおり、正科生・科目履修生を合わせて、現在の在籍者数は約7400名にのぼります。

本学には、学位取得を目指す学生と、リカレント教育として学び直しをされる学生がおり、その割合はおおよそ半々となっております。また、令和2年度以降、学生層の若年化が顕著に進んでおり、令和7年度の正科生(前期生)の年齢別入学者数を見ますと、10代・20代の若い世代が全体の約70%を占めております。

これまで、本学通信教育部は、約38,000名の卒業生を社会に送り出してまいりました。昭和47年に発足した通信教育部校友会は、現在、「在校生・卒業生・教員の連携による共生組織体」という理念のもと、学生支援や校友間の絆の深化、地域との連携、そして、校友会の持続的な発展を目指し、各方面での取り組みを続けていただいております。

通信教育部の伝統行事である学園祭「集夏祭」が昨年9月に約5年ぶりに復活し、今年も、学生が主体となつて企画運営する「集夏祭」を開催し、学生間の交流や学びの輪をさらに広げています。あわせて、夏期スクーリング初日には学生交流会を企画し、普段は顔を合わせる機会の少ない学生同士がつながる貴重な場を提供しています。こうした取り組みにおいて、北村会長をはじめとする校友会の皆様の広いご見識と柔軟なご発想は、校友会活動の推進に大きく貢献されてい

るものと確信しております。

本学通信教育部の大きな特色は、独立キャンパス、選べる学修スタイル、そして学びをさらに深められる大学院を有している点にあります。

通信教育部は、今年2月より「学生・学修支援センター」を新たに設置し、「多様な学びに寄り添い、共に歩む」をモットーに、現代社会のライフスタイルに適応した教育環境の整備に鋭意努めております。そして、日本大学の一員として、通信教育部と大学院総

合社会情報研究科は、77年間の歴史と伝統を受け継ぎつつ、さらに百年へと繋いでいくための努力を惜しまず、在校生や校友にとつてより魅力ある学び舎となることを目指してまいります。

日本大学には克服すべき課題がまだまだたくさんありますが、林真理子理事長・大貫進一郎学長の指導体制のもと、「組織風土」の改善が着実に進んでいます。通信教育部は、これまで校友会の皆様と教職員が一体となり、その発展に努めてまいりました。母校の発展と社会への貢献という二つの使命を果たすうえで、通信教育部校友会が果たす役割は今後さらに大きくなっていくものと確信しております。

校友会本部といたしましても、通信教育部校友会との連携を一層深め、全国の校友を結び、支え合う活動を推進してまいります。どうか引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、通信教育部校友会のさらなるご発展と、会員の皆さまのご健康、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。挨拶いたします。

